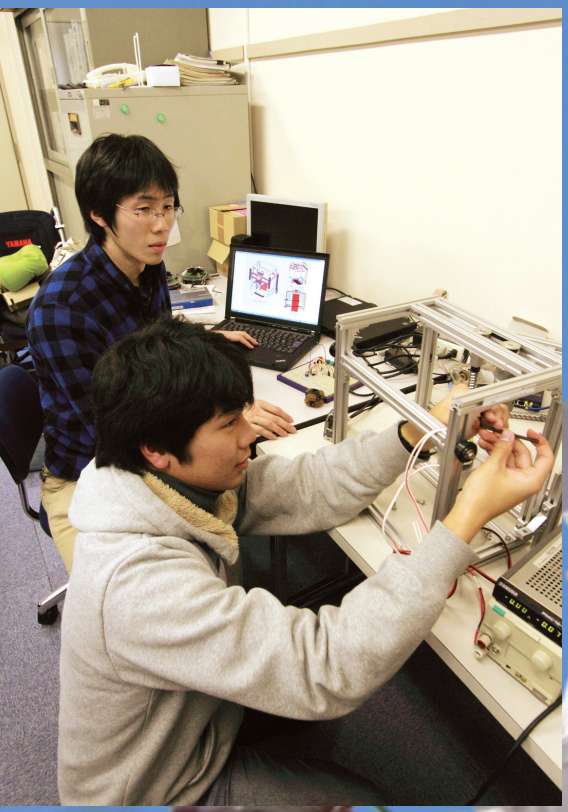
KUMAMOTO KOUSEN

熊本高専だより

革新する技術、創造する未来 ～夢へ翔る熊本高専～

2012 SPRING 春 第8号
平成24年3月 発行



今月のテーマ
卒業「新たなる出発」

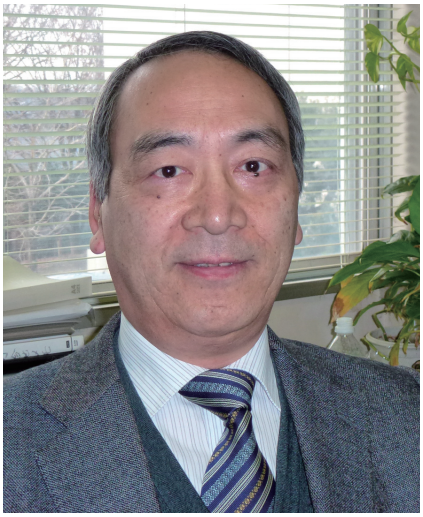
Contents

■巻頭のことば …… 01
■特集：新たなる出発 …… 03
■進路速報 …… 09
■退任教職員からのメッセージ …… 13
■学生会・寮生会報告 …… 16
■キャンパス近況 …… 17
■研究紹介 …… 19
■諸だより …… 21

The Beginning
巻頭のことば

卒業に寄せて
ー新たな道を歩み始める卒業生へー

副校長　神田一伸



卒業おめでとうございます。

旅立ち

通い慣れた熊本高専への通学路から未知の世界への旅立ちです。さて、これまで世界経済を牽引してきたヨーロッパではギリシャに端を発した経済破綻がスペイン、イタリアへと広がりユーロ圏全体の経済の状況を悪化させています。更に民主化を目指す途上国の内乱も広がってきました。国際社会は混迷の度をなお一層拡大しそうな勢いです。ドル安・ユーロ安に加えてこれまでにない円高で日本の企業も徐々に活力を奪われてしまいそうです。昨年の東日本大震災を初めとする自然災害の復興もままならない状況です。重苦しい世界情勢ですが一人一人が夢と希望を持って果敢に生きてゆく時だと思います。

卒業生の成長を願う

熊本高専の目標は「専門分野の知識と技術を有し、技術者としての人間力を備えた国際的にも通用する実践的・創造的な技術者」の養成と社会貢献です。人生は果てしない旅路のようですが生きている今が全てです。仕事においてもそうですが、学問とは「学び問い続ける」ことです。問い続けることで生きる目標を見出し成長があるのです。これまで学んだ基礎学力と身に着けた技術力に自信を持ち、社会人としてのマナーを守ってこれからの生活に臨んでください。

永遠の友情（絆）を大切に

卒業後は一人一人が社会の荒波にもまれてともすれば希望を失いがちになる時が来るでしょう。そんな時頼りになるのが5年間一緒に汗を流し、泣き笑いしたかけがえのない友人です。機会を見て年に一度でも顔を合わせると、本当に心が洗われて「また明日から」と元気が出てきます。5年、10年、20年と同窓会を続けることをお勧めします。たまには先生のことも思い出すでしょう。

高い志を掲げて

少子高齢化の社会が到来します。日本の生きてゆく道は、今より更に国を開いてグローバルな環境を目指すことです。否応なしにアジアの国々を初めてとして欧米の人達との交流が増えてくることでしょう。確かに日本は素晴らしい文化を持った歴史のある国です。地方分権ではその資源を活かしながら、なおかつ世界の国々の一員となるには優れたリーダーが必要です。高専の卒業生にも多くの優れた先輩リーダーが活躍されています。「怠りて心励まず　100年を長らえるより　奮い立ち心励みて　一日を生きんぞ勝る」です。日々怠らず、目標を高く掲げて仕事に邁進してください。

最後になりますが、皆さんは熊本高等専門学校の誕生に現役生として関わった世代です。また高専という組織が生まれて今年で50周年という節目の年です。この記念すべき年に学び舎を後にして夢膨らむ世界に羽ばたく皆さんの活躍を心から祈念しています。

「思い出」、「卒業」、そして「これから」

熊本キャンパス奨学後援会
会長 樫本　茂弘
kouen@kumamoto-nct.ac.jp

卒業、おめでとうございます。

さて、はじめに在学中のことを振り返っていただきたいと思います。どのようなことが思い浮かび上がってくるのでしょうか。たぶん、それがあなたにとっての学校生活の中での「思い出」になるのではないかと思います。大切にしてください。

「卒業」は、人生のひとつの区切りです。入学したときの君たち、そして今の君たちがいます。卒業に至るまで、１人ひとりが努力されたと思います。その今の君たち１人ひとりが、この学校生活の中で将来につながるしっかりとしたもの（例えば、自信や経験、知識や技術など）を得ることができたことと思います。

在学中は同じキャンパスで共に学び、活動し、同じ歳月を過ごしてきました。卒業後の進路は、進学、あるいは就職であったりしますが、それぞれの方が新たなスタート位置に付くということです。進路を決めるときには多くの人が悩まれたことと思います。悩んで決めた進路です。１人ひとりが、今後、この学校で培った力を発揮され、活躍されることを願っています。

また、これまでは与えられた課題を考え解決するということだったかと思います。しかし、これからは自分で現状から課題を見つけ、自ら解決するという姿勢を持つことも必要となります。この学校で学んだことはその基礎を身に付ける過程だったと思うこともあるかもしれません。社会に必要とされているもの、役立つものは何かということを常に意識しながら、これからの日々を歩んでいただくことを期待します。

卒業生の保護者の方々におかれましては、卒業のお喜びを申し上げます。後援会では学校の先生方とともに学生のみなさんのより良い環境づくりに努めてきたところです。後援会活動について、今後とも御理解と御協力をお願いします。

最後になりましたが、卒業生を卒業に至るまで温かく見守っていただいた宮川校長先生をはじめ先生方に厚くお礼申し上げます。

最高の笑顔で

八代キャンパス後援会
会長 稲村　由美
kouenkai@kumamoto-nct.ac.jp

卒業生・修了生の皆さん、保護者の皆様ご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

これから社会へ、また更に勉学に向かう皆さんに忘れないでいて欲しい事を三つ、はなむけの言葉として送らせて頂きたいと思います。

『いつも笑顔でいて下さい』笑顔は周りを明るく温かくし、自分自身に勇気を与えてくれます。辛い時こそ努めて笑顔！難しいけれど、とても大切な事だと思っています。

『感謝の気持ちを忘れないで下さい』人は一人では生きてはいけません。どんな時も必ず誰かの助けを借りて生きているのです。些細な事でも「ありがとう」「ごめんなさい」の気持ちを忘れずにいて欲しいと思います。「ありがとう」は魔法の言葉です。

『出逢いを大切にして下さい』人が一生の間に出逢う人の数は３万人。その中で近しい関係になるのは３千人だそうです。全ての出逢いが宝、そして奇跡です。必ずあなた方にとって何らかのプラスになるはずです。出逢った事に感謝したいですね…

これからのあなた方には、輝ける未来が待っています。辛いことや悲しいこと、くじけそうになることもあるでしょう。そんな時こそ、下を向かず頑張って前を向いて笑ってみましょう。きっと少し元気になれるはずです。楽しいことや嬉しいこともたくさん待っていますから…

高専で培った全てをこれからの人生の中で存分に発揮し、『最高の笑顔』で進んでいって下さい。心から応援しています。

あなた方との出逢い・・私の宝物です！

特集 新たなる出発！

5年間を振り返って

情報通信工学科５年　田尻　祐介

巨大スクリーンで笑いのネタにされてからもう５年。入学当初、この電波高専という環境は驚きの連続でした。勝てるはずのないクラスマッチ、自由すぎる校風、そしてそれに伴う留年からの逃走劇！個性的な人ばかりが集まっている中、無事にやっていけるかと心配でしたが、気が付けばもう卒業です。

長いようで、短かったこの５年間、技術者になるための力を身につけることができたのか、正直自分ではわかりません。しかしはっきりとわかったことが１つあります。それは、心からの喜びや、充実感を得るためには、どれだけ目標に対して悩み、苦しむことができたかが重要になるということです。部活にしても、電波祭やクラスマッチなどの行事、また多くのレポートやテストにしても、今になって本当に楽しかったと思えるのは、その時その時をまわりの仲間たちと協力し、共に乗り越えてくることができたからだと確信しています。

最後に、今までお世話になった先生方や友人に感謝します。デンパさいこ―――！！

進　路

電子工学科５年　西村　祐典

私は、四年次の進路選択の際、大学への進学を決意していた。実は、入学当初から決めていたことである。しかし、進学を希望する特定の大学や研究室は無かったので、とりあえず資格取得などをしていた。三年の夏に何となく夢を見つけて、一年以上後、四年の秋頃から少しずつ受験勉強し始めたのだが、周りには受験勉強をする人はあまりおらず、モチベーションはなかなか向上しなかった。学校がある平日はまだ良いのだが、休日や長期休暇になるとなかなか勉強しようという気にならなかった。この原因は、なぜ〝これらの学校〟の〝これらの研究室〟に行きたいのかを勉強する内に見失ってしまったからであろう。受験の前段階には、様々なミス（宿泊場所から目的地へのルートの未確認による遅刻や、第二希望の学科の未受験など）があり、何度か唖然とした。また、専門科目の勉強不足は明らかで、自分の甘さを痛感した。しかし、７月に豊橋技術科学大学に合格したので、無事に進路を決めることができた。この学校に感謝しつつ、人の何倍も努力できる人間になることを目標とする。

高専生活を振り返って

電子制御工学科５年　坂井　　潤

それなりに勉強して、それなりに遊んで、人並みに恋をして。あっという間に5年間=今までの人生の1/4をここの学生として過ごしてしまいました。そう考えると、もったいない生き方をしてきたなと感じます、皮肉ではなく。もっとやれることはあったはず、とか。ほんと『後悔先に立たず』ですね。

思い出と言えば、やはり、学生会役員として過ごした日々が浮かびます。今ではかけがえのないものとなりました。活動を通して年代関係なくたくさんの人と出会い、関わっていけたことで、学生生活を最後まで楽しく過ごすことができました。この場を借りて、お世話になった皆さんに感謝の気持ちを伝えたいと思います。本当にありがとうございました。そして、これからもどうぞよろしくお願いします。

最後になりますが、5年間を400字にまとめるなんて無茶な話です。結局のところ、何事も楽しんだ者勝ちなんだなって思います。最後なんだし、少しくらい気取ったことを書いたっていいじゃない。これからもずっと、楽しむという気持ちを大切にしていきたいです。

就職の道と向きあった高専生活

情報工学科５年　福島　篤志

４年生の終盤から、本格的に就職活動がスタートした。履歴書や自己推薦書を何度も書き直し、筆記試験の勉強や面接の練習をする。そんな中で先生方に助けられながら、無事に就職活動を済ませ、内定を頂くことが出来た。

学生生活を終え、大人として世間に踏み出せば、そこからは自分自身の力で進んでいかなければならない。先生方の助力からは、私たち学生を成長させ、自立を促す意図が感じられた。就職という

壁を超えることは、今後の人生への第一歩に過ぎないのだろう。この数か月間を通してそう実感した。

高専生活の中で、私は「自らの力を信じること」を学んだ。部活や勉強、そして就職といったどんな問題も自分自身で解決しなければいけなかった。この5年間は、将来を生きていくための「自立」に繋がるものだったと思っている。これから先の人生は期待と不安で満ちているが、いままでの高専生活で学び培ったことを忘れずに、「自信」を持って自分の足で歩んでいきたい。

選択と追求と人生の楽しさ

情報通信工学科5年担任　小田川裕之

卒業おめでとうございます。5年間は楽しいこと辛いこと、密度の高い毎日だったと思います。今、新しいスタートを迎える皆さんに、ぜひ考えて欲しいことがあります。すぐに答えが出なくても、これをきっかけに何年かに一度は考えてみて下さい。それは、10年、20年先の自分にとって楽しい人生は何か、それを実現するには今何をやるのがよいかということです。本校を卒業する皆さんは、自分で道を拓いていく基礎力を既に身に付けています。教員は多くの基礎や技術の中から大切と考えることを選択して皆さんに教えました。しかしこれからは、何をやって何をやらないか自分で選択して追求しなくてはいけません。楽しくなるにはそれが不可欠だと思います。私の場合は、「今こんなことをしています」と10年、20年後に卒業生が遊びに来てくれて、その時々の新しい話題を議論できたらいいなと考え今の道を選びました。皆さんそれぞれの道で活躍されて、面白い話をしに来てください！

卒業生に贈る

電子工学科5年担任　高倉健一郎

卒業生のみなさん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。長い高専生活を終え、安心されたことと思います。

電子工学科の卒業生のみなさんとは、多くの講義で接する機会がありました。講義中に、それぞれが考えながら受講できるよう工夫しましたが、いかがでしたか？社会人になってからも新しい技術や知識を学ばなければならない機会は多々あります。未知の技術に臆せず、挑んでくれることを期待しています。

また、本校で培ってきた知識はもちろんですが、交友関係や経験は、みなさんそれぞれが活躍する場で役に立つ時が来ます。私自身、熊本電波高専を卒業するときは、卒業できた喜びよりも、社会に出ていく不安の方が大きかったですが、高専時代の友人や先輩・後輩、恩師など様々な機会に助力いただいています。みなさんも、本校で得た様々なものを財産として、目標に向かってください。

卒業生の皆さんへ

電子制御工学科5年担任　嶋田　泰幸

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今日から皆さんも熊本高専卒業生の仲間入りですね。これまでの学生生活では、学校という狭い範囲で、正解のある問題に取り組むことが多かったのではないかと思います。しかし、これからは世界という広い舞台で、正解の無い問題に取り組んでいくことになるでしょう。一見難しそうですが、単に「正解」がないだけです。自分で自由に解答をつくればいいのです。自分の解答を見つけるには、論理的に考える力や問題を分析する力、コミュニケーション能力、創造力など様々な力が必要になるでしょう。そんなとき、皆さんが高専で得た様々な経験や知識がきっと役に立つはずです。何事も諦めずに、頑張ってください。皆さんのめざましい活躍を祈り、また、大いに期待しています。

最後になりましたが、保護者の皆様におかれましては、これまでご理解とご協力いただき、誠にありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

卒業生に贈る

情報工学科5年担任　縄田　俊則

卒業式を迎えるにあたって、どうしても忘れられないことがあります。

昨年度の卒業式後のパーティー中に大震災の速報が参加者の携帯に次々と届き、これまで経験したことのない事態が起きていることを直感し戦慄を覚えました。震災のその後については私が申し上げるまでもありません。この一年、国内では震災の影響、国外では通貨危機など、これまでの社会基盤が揺さぶられるような事態が次々と起きています。先行きが不透明な社会情勢の中で本校を巣立っていく皆さんは、非常に多くの不安を抱えていることと思います。しかし、今の時代を生きる我々は幸せだと私は思います。他国に目を向ければ、この瞬間も、紛争や飢餓で命を失う方が大勢います。この国もわずか数十年遡れば同じような状況でした。私たちには、明日を決める自由があります。前向きに取り組めば、いろいろなことにチャレンジできます。この時代の暗さに負けることなく、力強く人生を歩んでください。

卒業、おめでとう。

東京は本当に凄かったです。

機械電気工学科５年　江藤健太郎

まず、この５年間を振り返ってみてまず思うことは、あっという間に５年経ったな、ということです。色々と躓いたり壁にぶつかったりした時もありましたが、充実した学校生活を送れたと思います。

一番大変だったのは、やはり勉強や課題ですね。教科数も多く、更に専門分野ということもあり理解するのが結構大変でした。課題に関しても難易度の高いものも多く、テスト期間と重なる時もあり忙しかったです。ですが、これらのおかげで自分のスキルアップが出来たといえば出来ました。

逆に一番楽しかったのは、４年生の時に行った修学旅行ですかね。様々な企業、工場を見学させていただきました。とても貴重な経験をすると共に、数多くのことを学ばせていただきました。数日間にわたる工場見学の後は東京にて解散でした。解散した後は友達と東京を満喫しました。

この５年間あっという間ではありましたが、満足のいく５年間でした。

想ひ出ぽろぽろ

情報電子工学科５年　稲村　大樹

僕が八代高専に入学して、もう５年の月日が経とうとしています。入学したての頃は、４つも年上の先輩がいて正直、こんな環境でやっていけるのかすごく不安だったけれど、気がつくと５年生になり、もうすぐ卒業を迎えます。なんだか本当にあっという間の５年間でしたが、後悔など一つもなく…いや一つか二つはあったかもしれないけれど、本当に充実した高専生活でした。

そして、５年間の高専生活を思い返してみて、やはり一番の思い出は、部活動です。現役の頃は当たり前のように部活に行っていたので、あまり意識してなかったけれど、引退して初めて部活をしている時間が、自分にとってどれだけ大切な時間だったかに気付くことができました。現役でやっている後輩たちも、今は気付かないかもしれないが、引退した後に部活をやっていて良かった…と必ず思うはずだから、きつくて辞めたいと思う時があるかもしれないけれど、頑張って５年間続けて下さい。　特にサッカー部！

では最後になりましたが、５年間を通じてお世話になった先生方、本当にありがとうございました。

20回目の1月8日を終えて

土木建築工学科５年　竹部　　薫

去る1月８日、成人式があった。そこで私は、皆がそれぞれに大人の階段に登っていることを感じた。ツケマ（？）などを使いこなし目を大きく見せる昔は一重だった女子達、ド派手な髪型に変わったけれども心は昔と同じように優しいままの友人達や、都会の方で仕事を頑張っている友もいた。

私の実感としては高専で過ごしたこの５年間という月日は短かったが、本当は長い長い時間が過ぎていたようである。皆は、今までどんな人生を送ってきたのだろうか。そして、自分自身の５年間はどうだったか。

高専は、テストは難しい、レポートは山ほどある、夏休みは他高校とずれ旧友と会えず、先生方は頭が良すぎ、自分がなぜか副会長になり、構力は難しかった。沢山の困難はあったが「楽しかった！」。この困難を乗り越えた要因は、一緒にいた仲間達のおかげだ。何かを成し遂げるには沢山の人が必要なのである。

『ワンピース』16 巻に「人間はいつ死ぬと思う？銃で心臓を撃ち抜かれた時・・・違う。不治の病に冒されたとき・・・違う。猛毒性キノコのスープを飲んだ時・・・違う。・・・人間が忘れられたときさ」。この言葉の意味がよくわかった。今まで一緒に過ごしてきた仲間達を大切にしないといけない。そして自分自身のことを忘れさせないようにしていくことが生きるってことだと感じた。

就職の道と向きあった高専生活

生物工学科５年　中口　雄貴

「研究能力だけは他の高専生、大学生に負けないようになろう。」大学に編入する身の私は、そう決意してこの１年間、研究活動に専念してきました。実際、センター試験を経験していない我々高専生は、英語能力をはじめとする基礎学力において一般の大学生に劣るのは明確だからです。私の担当教官の墨先生のモットーは「机の上で学んだことはいずれ忘れるが、研究を通して得たことは一生忘れない」であり、私はその言葉を信じて研究に取り組んできました。

実際に実験をしてみると、まさしくその通りで、「こういう意味だったのか。ここで使うのか」と、授業の知識が全く応用出来ない自分に憤りを感じる一方で、操作の一つ一つが高専で学んできた知識を確かなものにするいい機会となりました。また、研究を通して、外部の研究者の方々の分析や考察を目の当たりに出来たのは、今後、研究者を目指す私にとって非常に大きな財産になると確信しています。

進学先では、今とは異なる分野の研究を行うことになると思いますが、この1年で得た知識や技術を生かせるような、視野の広い研究をしていきたいです。

卒業生に贈る

機械電気工学科５年担任　古嶋　　薫

まずは、卒業おめでとう。

４年生スタート時には、クラス全員を卒業させることを目標にしていましたが、残念ながら５年に進級できず留年や退学した者も数名出てしまいました。今は卒業が決まってほっとしていると思いますが、君達にとってこれからが本当のスタートになります。

昨年の３月 11 日に起きた未曾有の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故は、我々に大きな衝撃をもたらしました。こうした中でスタートした今年度の就職戦線は、例年になく厳しくなると予想していました。しかし、蓋を開けてみると多少の混乱はあったものの、大学生の就職内定率が 70%そこそこと低迷する中、本校の就職内定率は今年もほぼ 100%に近い数字を達成しそうです。なんて高専生は恵まれているのでしょうか。

石の上にも三年といいます。多少辛いことがあっても、努力することを怠らなければ必ず道は開けます。熊本高専卒業生としての誇りを胸に頑張って下さい。君達の活躍を期待しています。

卒業にあたって

情報電子工学科５年担任　白井　雄二

卒業する学生諸君おめでとうございます。進学や就職の合格が決まったときの気持ちをもう一度思い出してください。この合格は君たち自身の実力で決まったと思っているかもしれませんが、親、先生方、友人、のバックアップ、先輩方の評価も大いに関係して、合格が決まったはずです。そのことを忘れず、親に、先生方に、先輩に、友人に感謝して、今度は君たちが恩返しをすることを忘れないようにしてください。

今年度は、３月 11 日に未曽有の東日本大震災が起こり、日本が大変なことになったことから始まったように思えます。幸い、この震災による就職状況の大きな変化はありませんでしたが、やはり、就職戦線は厳しいものがありました。もう、高専ブランドはあまり役に立たない、いや、頼ってもうまくいかない感がありました。しっかり自分を分析して、自分をアピールしなくてはいけません。しっかり人間力を見られるようです。

進学は、昨年より増えました。その中で特記しなくてはいけないことは、過去に留年した学生は、どちらかというとその後も成績は芳しくありませんでしたが、今年度は、一人は専攻科の推薦が受けられる成績で専攻科に、一人は推薦にはわずかに成績で足らなかったのですが、学力試験を受け、見事に合格しました。やればできるんです。努力は報われるのです。今後の活躍を期待します。

未来に向かって

土木建築工学科５年担任　　岩坪　　要

５年生諸君、卒業おめでとう。

５Ｃ諸君とは担任として２年間付き合って頂いた。まずは感謝である。

諸君は今何を思うのだろうか？喜び、不安、希望、期待、心配、etc、複雑であると思う。就職活動の話題が報道される中、初めての４年と５年の担任をすることになり、私は４年の時から緊張し続けていた。さらに3.11の東日本大震災である。ずっとプレッシャーがかかり続けていた気がする。しかし卒業だ！素晴らしい！何よりも心からおめでとう！

先の震災では、この世の中がバランスの中で成り立っていることが実感できたと考えている。バランスが崩れるとどんな状況になるのかが示されたが、このバランスを保つには誰一人として欠けてはいけないことも示していたと思う。

諸君は未来の日本を創造するエンジニアとなり、日本のバランスを保つ重要な役割を担っている。一人一人が、それぞれの立場でそれぞれの役割を持っているのである。

未来に期待しよう！

５年の担任を終えて

生物工学科５年担任　浜辺　裕子

約1年前の3月11日、生物工学科では就職・進学を最終決定する三者面談を行っていました。3月は、進路を決定し、就職する学生は応募書類（履歴書、エントリーシート、推薦書など）を作成し提出、4、5月に行われる採用試験に向けて対策を行う重要な時期です。次々と流れてくる大震災のニュースに、非常に不安になったことを覚えています。多少の影響はありましたが、ほぼ例年通りに採用試験は行われました。

4月の採用試験の結果は愕然とするほど悪いものでした。SPI試験などの基礎学力不足、職種の理解不足など様々な指摘をうけました。学生にも危機意識が不足していたと感じています。気合を入れなおし、その後順調に内定をいただきました。生物工学科の卒業生38名のうち、20名が就職、18名が進学となりました。

これから進路決定する皆さん、本校では4年生で進路セミナーが開講され、採用試験前には進路支援室の先生方の指導・支援（履歴書の書き方、面接指導）が行われており、恵まれた環境にいます。この環境に甘えることなく、自

らの行動する自主性を身に着けてほしいと思います。実力（人間性、基礎学力、コミュニケーション力）があれば、必ず道は拓けます。日々の授業、課外活動など積極的に取り組んでください。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。それぞれの分野でプロフェッショナルとして活躍されることを期待しています。

選択で未来を切り開く

電子情報システム工学専攻２年　内保　徹平

選択と聞いてどのようなことを思い浮かべますか。自分の過去においてどのような選択をしてきましたか。選択について少し考えてみたいと思います。

運命とは何でしょうか。必然ですか、偶然ですか。例えば、人に出会うためには、人のいる場所に行くという選択をしなければ出会いませんし、皆さんが高専にいるのも受験をするという選択をしたからに違いありません。全ての起こり得る事象は選択によって導かれた必然だと思いませんか。

自分から求めないと物事を引き寄せたり、切り開いたりできないということです。2年後、5年後、10年後の自分を予想し、そのために、どのようなことが自分には必要で、何をしなければならないのかということを、日々状況が変わる中で、考えなければなりません。

私は専攻科を修了し進学の道を選択しました。これからも日々、小さい事象を選択し行動することで、自分の描いた未来を掴み取れるようにしたいと考えています。

やつちくからとんちくへ

生産システム工学専攻２年　吉崎　大地

熊本高専専攻科へ入学してから早２年がたとうとしています。思い返せば、この２年間多くのことを学び、たくさんの方に出会い、様々な刺激を受けました。建築設計コンペやTAなどで多くの大学生や高専生に出会い、多くのアイデアや構想を頂きました。特別研究では、複式学級を参考にし、自主的学習活動のための教室空間の計画要因の抽出と提案などを行い、建築計画的視点により新たな教室空間を見いだしました。毎日、研究室で楽しい仲間や先生と共に、研究に打ち込む日々でした。

ご指導して頂いた勝野幸司先生をはじめ、たくさんの先生方には大変お世話になりました。ありがとうございました。高専で学んだ７年間は人生の中で最も楽しい時間であり一生の思い出です。４月から環境ががらりと変わり、東北大学の大学院へと足を進めます。自分自身の手で東北の街を少しでも支え、多くのプロジェクトへ参加していき、頑張って行こうと思います。

３年間の留学生活

情報通信工学科5年　ラマナナリヴォ・ミハリ・フィデラナ

熊本高専の3年生に編入した最初のクラスは、私の留学生生活でもっとも印象に残るものとなりました。日本語もあまり分からなかったしカルチャショックで先生や日本人学生と誤解が多くありました。授業中の講義は半分しか分からず、そのままではいけないと思い、授業が終わってから家で一所懸命勉強することにしました。先生たちからもいろいろな補講をしていただきました。

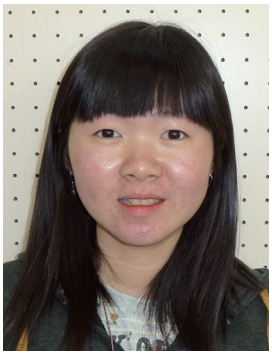
4年生になってから、学校の雰囲気にだんだん慣れてきて、学力や生活はスムーズに進むようになりました。休みの日には学外の交流会へ行き、餅つき、そば打ち、書道や茶道などの様々な日本文化を体験し、とても楽しかったです。

卒業してからは、大阪大学工学部に編入することになっており、大学院まで進学したいと思います。その後は海外にある日本の会社または、海外の会社と日本の会社のやり取りをする仕事をしたいと思います。

熊本高専に留学してよかったと思います。

３年間ありがとう

土木建築工学科５年　マクムン・ソフィアニ



こんにちは！私はインドネシアから来た留学生で、マクムン・ソフィアニと申します。土木建築工学科の５年生で３月に卒業して、４月から千葉大学に編入します。

八代にいる間に色々なことを体験させて頂きました。一番印象に残ったのは成人式とくまがわ祭りの総踊りに参加できたことです。成人式の時には、ホストファミリーに着物の着付けから化粧や髪の飾りまで色々して頂き、日本の成人式に参加でき良い体験ができました。くまがわ祭りの時には、浴衣を着させて頂き、大きな道で歩きながら踊る不思議な体験ができました。このような八代でしか体験することのできないイベントに参加できてよかったです。

たくさんの交流を通じて、とても楽しい３年間の高専生活を過ごすことができました。３月に卒業しても，ここにいた楽しい時間を絶対に忘れずに、進学先でまた頑張っていきたいと思います。熊本高専に来てよかったです。ありがとうございました。

また一つ広がる世界

電子情報システム工学専攻長　三好　正純

卒業・修了される皆さん、おめでとうございます。皆さんはこの熊本高専で学ばれ技術を身につけ、それぞれの道へ進まれようとしています。

人間はこの世に生を受け、はじめは親の見えるところにいないと不安でなりません。その後、幼児期、少年期と少しずつ親の見えないところでも不安がなくなり、やがて親元を離れます。自分の生活や行動に自信と責任をもてるようになるからです。このことは改めて自覚することは少ないでしょう。しかし、日々人との交わりの中で学習し着実に身についていきます。

皆さんは本校での授業・課外活動を通して新しい発見や感動、ときには失敗をして、たくさんのことを学習してきています。入学の頃を振り返ると、そのとき知らなかった言葉や事象、友だちを今、たくさん得ていることに気づくでしょう。これは皆さんの学習の成果です。

また一つ広い世界へ向かう準備ができています。新しい世界でまた多くの発見・感動と出会い、ご活躍されることを期待しています。Happy graduation！

被災地の復興に学び、支援を

専攻科担任　磯田　節子

今年度のC系修了生は４名就職１名進学で全員内定を得たが、専門とする土木建築の世界では特別な年となった。東日本大震災である。

昨年11月、一関高専に行く機会があり、帰りに女川を目指した。ちょうど８カ月目の11日で14時46分にサイレンが鳴り響いた。中心部は壊滅状態で瓦礫は片付けられ、平らな空地が広がっていたが、4,5階建てのコンクリートビルが３棟横倒しになっている驚くべき光景を見た。津波に対して構造的に全く考慮がなかったとも聞く。そして、最も大事なまちの復興はどうなるのだろうか？

熊本では、くまもとアートポリスのコミッショナーで建築家の伊東豊雄さんが提案して、仙台の仮設住宅地に居心地のよい「みんなの家」を送るプロジェクトが立ち上がった。現地に送る前の仮の組立作業に、専攻科生も参加した。九州の地において東北は遠い。簡単に現地へ行けない。しかし就職して社会人となれば、被災地の復興に何らかの関わりが出てくるはずである。しっかりと立ち向かってほしい。君たちの可能性は無限である。健闘を祈る！

素晴らしいエンジニアに

同窓会長（熊本キャンパス）　森川　卓亮

熊本高専を卒業される卒業生・修了生の皆さん、「ご卒業」おめでとうございます。

今、就職・進学される皆さんは、希望に満ちあふれている事と思います。ただ、技術の進歩は、今まで以上のスピードで進化しています。こういう時代には、自らが、常に新しい技術を学び続ける事が、大切となってきます。また、そのような人だけが、一流の素晴らしいエンジニアになれます。また、東日本大震災・円高・ヨーロッパ金融不安などで、非常に厳しい経済状態が続くものと思われます。こういう時代には、自らが、生涯学習をする事を基本に、柔軟な思考で何事にもチャレンジしてください。

また、熊本キャンパスは、古くからの伝統ある高専で、諸先輩の方達が、素晴らしい歴史を築いて来られました。卒業される皆様が活躍され、さらに熊本高専の名を高められる事を、期待しています。

卒業生・修了生に贈る言葉

楷友会（八代キャンパス）亀田　英雄

卒業生・修了生の皆さんこの度はおめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。

昨年は何と言っても東北の大震災という未曽有の出来事がありました。地震と津波による自然災害と原発事故という人災により、日本は危機的状況に陥り、政治も不安定で全ての出口が見えません。

一方で今回の災害はこれまでの価値観を大きく変えた事でもありました。日本人として忘れかけていた人が人を思う気持ち、『絆』が再認識されています。

このような時期に旅立つ諸君ですが、人と人のつながりの大切さを忘れずに、これからの日本を支えるという高い志を持って懸命に頑張って欲しいと願っています。

本年度の進路状況について

学生主事補（進路担当）大石　信弘

本科卒業生のみなさん、専攻科修了生のみなさん、ご卒業・ご修了おめでとうございます。

さて、今年度の進路状況を振り返って見ますと、東北大震災の影響は就職・進学両面でまだ表立った影響が出ておらず、それとは反対に、ここ数年来の不況下での高専人気が卒業生の進路選択に大きな影響をおよぼした年となりました。

まず、就職ですが、厚生労働省発表の就職内定率によりますと、1月17日現在で、大学は全国平均71.9%（前年同期比3.1ポイント増）、高専は全国平均97.2%（同2.5ポイント増）で、不況下での高専人気の高さが続いています。本キャンパスの就職状況も、この統計とほとんど変わらず、就職希望者のうち、内定率は98.8%でした。この厳しい雇用情勢・社会情勢にあっても、このように高い内定率を維持できているのは、学科長をはじめ関係各位のご尽力の賜物です。そして何より卒業生・修了生が頑張った成果であり、誇らしい限りです。

次に進学ですが、不況に強い高専の就職のため、進学より就職の道を選んだ卒業生が多かったようです。例年だと55%程度の進学率が38.7%と専攻科ができて以来最低の進学率となりました。専攻科修了後の大学院進学率も4割程度と昨年より少なくなっていることを考えると、専攻科を経由した大学院進学もほとんど伸びしろは期待できないと思われます。熊本高専から難関大に進学していたのは過去の話、とならないよう、進学を考えている在校生には今一度入学した頃の初心に戻ってもらいたいと思います。

卒業生・修了生の皆さんは、4月から新たな環境での生活に期待と不安で胸がいっぱいのことと思います。世界を取り巻く経済状況は不安材料に事欠きませんが、ピンチの時こそみなさんの実力を発揮するチャンスです。卒業をゴールと思わず、これからがスタートという気持ちを持って、今後10年をめどにキャリアアップできるよう、どうか意志を高く保ち続けてください。

〈平成24年1月13日現在〉

■表1　平成 23 年度専攻科修了生就職先一覧

No.	就職先	地域		人数
1	日立国際電気サービス	東京	関東	1
2	住友ベークライト	東京	関東	1
3	旭化成	東京	関東	1
4	アドバンテスト	東京	関東	1
5	ニコン	東京	関東	1
6	NHKメディアテクノロジー	東京	関東	1
7	三菱電機 プラントエンジニアリング	東京	関東	1
8	菱栄テクニカ	神奈川	関東	1
9	シーテック	愛知	東海	1
10	デンソー	愛知	東海	1
11	クラックスシステム	大阪	関西	1
12	NTTドコモ エンジニアリング九州	福岡	九州	1
13	ソフトサービス	福岡	九州	1
14	THE EYE	熊本	九州	1
15	TOTO	福岡	九州	1
16	安川電機	福岡	九州	1
17	テクノコーポレーション	熊本	九州	1
18	九州旅客鉄道	福岡	九州	1
19	ゼンリン	福岡	九州	1
20	大和製罐	福岡	九州	1

合計 20 名（内女子 3 名）

■表 2　平成 23 年度専攻科修了生進学先一覧

No.	進学先	地域		人数
1	東京大学大学院	東京	関東	1
2	奈良先端科学技術大学院大学	奈良	関西	7
3	九州大学大学院	福岡	九州	6
4	久留米工業大学大学院	福岡	九州	1

合計 15 名（内女子 0 名）

■平成 23 年度本科卒業生就職先一覧

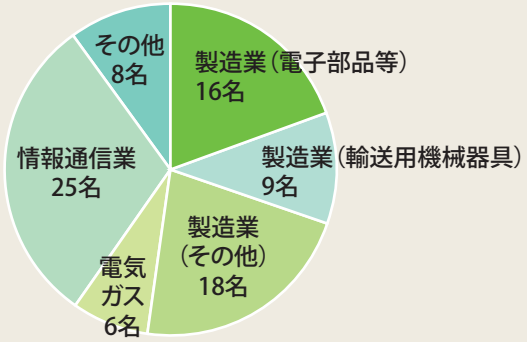
企業等＼学科名	情報通信工学科	電子工学科	電子制御工学科	情報工学科	合計
CTC システムズ		1			1
HSS		1			1
KDDI テクニカルエンジニアリングサービス	1				1
NTT ネオメイト				1	1
NTT コムソリューション＆エンジニアリング				1	1
NTT 西日本	1				1
TDC ソフトウェアエンジニアリング				1	1
アイシン・コムクルーズ			1		1
旭化成		1			1
アドソル日進				1	1
出光興産		1			1
エステンナイン京都				1	1
大阪シーリング印刷		1			1
オムロン阿蘇	1				1
オムロンリレーアンドデバイス		3			3
関西電力		1			1
キヤノン		1			1
キヤノンマーケティングジャパン	1				1
九州精鍛　熊本工場	1				1
九州電力	1		1		2
京セラ　鹿児島国分工場	1	1			2
京セラコミュニケーションシステム	1				1
コニカミノルタビジネスソリューションズ				1	1
サン電工社	1				1
サンリツオートメイション			1		1

企業等＼学科名	情報通信工学科	電子工学科	電子制御工学科	情報工学科	合計
新電元熊本テクノリサーチ	1				1
末松電子製作所	1				1
セイコーエプソン			1		1
ソニーセミコンダクタ九州		1			1
ソフト九州				1	1
ダイキン工業			1		1
ダイキンファシリティーズ		1			1
大和製罐	1				1
タカハタプレシジョン		1			1
中央電子工業		1			1
中外製薬工業	1				1
中部電力	1				1
ディスコ		1			1
東海旅客鉄道	1		1		2
東京エレクトロン FE	1				1
東芝エレベータ		1			1
東芝プラントシステム			1		1
ドコモ・エンジニアリング関西				1	1
トヨタテクニカルディベロップメント		1	1		2
ナカヤマ精密		1			1
西日本高速道路エンジニアリング九州				1	1
西日本高速道路ファシリティーズ				1	1
日本精工			1		1
日本ソフトウェア技研				1	1
日本電子材料		1			1
日本ビジネスエンジニアリング				1	1
阪神エレクトリック		1			1
日立コンピュータ機器	1				1
日立情報制御ソリューションズ	1				1
日立製作所	1				1
日立プラントテクノロジー			1		1
平田機工	1				1
富士ゼロックス福岡				1	1
富士通	1				1
富士通九州システムズ	1				1
富士電機			1		1
プレテックＡＴ		2			2
本田技研工業		1	1		2
前川製作所		1			1
三浦工業		1			1
三菱重工業　長崎研究所				1	1
三菱電機システムサービス				1	1
三菱電機ビルテクノサービス			1		1
三菱電機福山製作所		1			1
メタウォーター			1		1
安川エンジニアリング			1		1
雪印メグミルク			1		1
菱電工機エンジニアリング			1		1
リンクテクノロジー				1	1
合　計	22	27	17	16	82

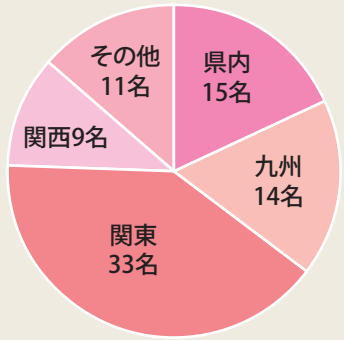
■平成 23 年度本科卒業生進学先一覧

企業等＼学科名	情報通信工学科	電子工学科	電子制御工学科	情報工学科	合計
豊橋技術科学大学		1	1		2
新潟大学			1		1
筑波大学	1			1	2
大阪大学	1				1
山口大学	1		1	1	3
佐賀大学	1		1	2	4
熊本大学	2	2		1	5
鹿児島大学	1		1	2	4
熊本高専専攻科	7	9	5	11	32
合　計	14	12	10	18	54

■平成 23 年度本科卒業生就職者数内訳（業種別）



■平成 23 年度本科卒業生就職者数内訳（地域別）



新しい社会の創造と自己の確立

進路支援室　　小林　幸人

卒業生・修了生のみなさん、卒業・修了おめでとうございます。新たな門出を迎えたみなさんとそれを支えてこられた保護者の方に、心からお喜び申し上げます。

みなさんは高専での生活を終え、新たな環境での生活をスタートさせます。さまざまな問題や課題に直面することになるでしょうが、挑戦の気持ちを決して忘れないでください。

さて、わが国は現在大きな転換期を迎えています。昨年の震災は極めて甚大な被害をもたらしました。自然災害の怖さだけでなく、快適で利便性の高い生活がリスクの上に成り立っているということに改めて気づかされたように思います。私たちは、復興に向けて努力するとともに、持続可能な発展を実現するために、科学技術のあり方を考えていかなければならないでしょう。

欧州金融危機の影響、長期化する円高、新興国の台頭、輸出大国であった日本のモノづくりもまた転換期を迎えています。さらに、少子高齢化の影響による社会保障制度を含めた構造改革は私たちの生活を大きく変えることになるでしょう。柔軟性と想像力が必要とされる時代です。

複雑化し、大きく変化する状況に対応し、新たな社会を創造するためには、何よりも自分をしっかりと確立することが重要です。卒業・修了にあたり、みなさんは自分の進路を選択した訳ですが、これからも選択を迫られる転機を幾度となく迎えることでしょう。納得のいく、将来に向けた選択・決断をおこなうためにも、日々の充実に努め、自己を見つめて、自分を成長させてください。

これからの社会は、みなさん自身が切り開き、創造することになります。みなさんの今後のご活躍とご多幸を、心からお祈りいたします。

■平成 23 年度本科卒業生就職先一覧

企業等＼学科名	機械電気工学科	情報電子工学科	土木建築工学科	生物工学科	合計
㈱アイ・エイチ・アイ　マリンユナイテッド	1				1
旭化成メディカル㈱	1				1
阿蘇製薬㈱				1	1
㈱アルファシステムズ		1			1
㈱アルメックス		1			1
イクストライド㈱	1	2			3
いすゞエンジニアリング㈱	1				1
伊勢丸食品㈱				1	1
出光興産㈱	1				1
㈱ウェブスターシステム		1			1
宇部興産㈱		1			1
㈱エイアンドティー		1			1
ＡＮＡフライトラインテクニクス㈱	1				1
大阪ガス㈱			1		1
大阪シーリング印刷㈱		1			1
㈱ガイアートＴ・Ｋ			1		1
花王㈱				1	1
関西電力㈱	1	1			2
キヤノン㈱		1			1
九州電力㈱	1	1			2
九州旅客鉄道㈱	1				1
㈱キューハウ			1		1
キューピー㈱　鳥栖工場	1				1
京セラ㈱　鹿児島国分工場		1		1	2
京セラ㈱　鹿児島川内工場	2		1	2	5
協和発酵バイオ㈱				1	1
㈱きんでん	1				1
高圧加工㈱	1				1
コニカミノルタビジネスソリューションズ㈱		1			1
五洋建設㈱			2		2
㈱再春館製薬所				1	1
サイバーコム㈱		1			1
三興製鋼㈱	1				1
㈱サンテック	1				1
サントリープロダクツ㈱	1				1
ＪＮＣ㈱　水俣製造所				1	1
ＪＦＥスチール㈱		1			1
㈱資生堂				1	1
シャープ㈱		1			1
昭栄化学工業㈱				1	1
昭和電工㈱	1				1
新日本製鐵㈱	1				1
㈱末松電子製作所	1				1
住友化学㈱　千葉工場	1				1
住友ケミカルエンジニアリング㈱			1		1
ダイキン工業㈱	1				1
大日精化工業㈱				1	1
タカハタプレシジョン㈱				1	1
武田薬品工業㈱　光工場	1				1
中央電子工業㈱	1				1
中部電力㈱	1				1
東亜建設工業㈱			1		1
東海旅客鉄道㈱	1				1
東芝エレベータ㈱	1	1			2
東燃ゼネラル石油㈱	1				1
東洋建設㈱			1		1
㈱東洋新薬				1	1
戸田建設㈱			1		1
㈱中山建設			1		1

企業等＼学科名	機械電気工学科	情報電子工学科	土木建築工学科	生物工学科	合計
西日本高速道路エンジニアリング九州㈱			1		1
西日本プラント工業㈱	1				1
西日本旅客鉄道㈱	1	1			2
日鉄パイプライン㈱			1		1
日本合成化学工業㈱　熊本工場	1				1
㈱日本触媒				1	1
日本たばこ産業㈱　九州工場		1			1
日本鉄塔工業㈱			1		1
日本メックス㈱			1		1
林建設㈱			1		1
㈱日立エンジニリングアンドサービス		1			1
㈱日立情報制御ソリューションズ		1			1
㈱日立ビルシステム			1		1
不二製油㈱				1	1
㈱富士通九州システムズ		1			1
富士電機㈱		1			1
松尾建設㈱			1		1
三井造船鉄構工事㈱			1		1
三菱電機ビルテクノサービス㈱	1				1
三菱プレシジョン㈱	1				1
ムラテックＣＣＳ㈱	1				1
明治㈱　関西工場				1	1
明治㈱　九州工場				1	1
メタウォーター㈱	1	1			2
安川コントロール㈱		1			1
八代更正病院		1			1
㈱山武			1		1
山本建設㈱			1		1
雪印メグミルク㈱				1	1
ユニバーサル造船㈱　有明事業所	1				1
ライオン㈱				1	1
若築建設㈱			1		1
合　計	36	26	22	20	104

■平成 23 年度本科卒業生進学先一覧

企業等＼学科名	機械電気工学科	情報電子工学科	土木建築工学科	生物工学科	合計
熊本高専　専攻科	9	11	10	10	40
熊本大学	1		2		3
鹿児島大学		2		2	4
千葉大学			1		1
広島大学				1	1
九州工業大学				1	1
東京農工大学				2	2
電気通信大学大学院		1			1
その他（各種学校進学等）	1	1		2	4
合　計	11	15	13	18	57

■平成 23 年度専攻科卒業生就職先一覧

企業等＼学科名	生産システム工学専攻（機械）	生産システム工学専攻（情報）	生産システム工学専攻（建設）	生産システム工学専攻（生物）	合計
㈱アイ・エイチ・アイ　マリンユナイテッド	1				1
旭化成エレクトロニクス㈱		1			1
旭化成ケミカルズ㈱	1				1
㈱カネカ				1	1
キヤノンシステムアンドサポート㈱	1				1
九州旅客鉄道㈱	1		1		2
サントリープロダクツ㈱				1	1
田中貴金属グループ				1	1
中外製薬工業㈱				1	1
日東電子㈱				1	1
日本原子力発電㈱	1				1
㈱日立プラントテクノロジー	1				1
富士通㈱		2			2
マツダ㈱	1	1			2
三浦工業㈱	1				1
三菱化学エンジニアリング㈱			1		1
三菱電機エンジニアリング㈱		1			1
㈱明治	1				1
メタウォーター㈱	1				1
モラブ阪神工業㈱		1			1
安川エンジニアリング㈱		1			1
熊本県庁			1		1
人吉市役所			1		1
合　計	10	7	4	5	26

■平成 23 年度専攻科卒業生進学先一覧

企業等＼学科名	生産システム工学専攻（機械）	生産システム工学専攻（情報）	生産システム工学専攻（建設）	生産システム工学専攻（生物）	合計
九州大学大学院	1				1
熊本大学大学院				1	1
東北大学大学院			1		1
奈良先端科学技術大学院大学		3			3
合　計	1	3	1	1	6

退任教職員からのメッセージ

高専での教育・研究を振り返る

共通教育科　嘱託教授　本田勁二郎

「高専での教育・研究を振り返る」というテーマでの原稿を書けと言われて、はたと困った。二年前に一度書いたが、教育・研究を振り返る程のことは何もしていないからだ。電波高専に何かの目的を持って就職した訳ではない。電波高専に職を得たのは極めて偶然の出来事だった。だが、それは私にとってこの上にない幸運でもあった。

高専生活（私にとっては結局電波高専だったが）で一番記憶にのこることは学生に恵まれたと言うことだ。さほど期待して来なかったのが良かったのかも知れない。教員として19年、嘱託として２年、合わせて21年間、ただひたすらに学生に数学を教えただけだ。その他は何もしていない。学校の雑務に関わることもなく済んだのは幸運だった。その分、学生たちとは深く付き合った。一年生から五年生までの学生に教えた訳だが、学生たちは多くのことを私に教え、与えてくれたと思っている。教育とは教えることでなく、教える側が学ぶことでもある。

私が以前やっていた素粒子の研究は高専でやるには難しすぎた。高専で細々とやることは、私にはもはや意味のないことに思えた。今まで私が経験してきたこと、私が考えてきたことなどを、教育などという言葉を越えた学生との交流の中で学生たちに伝えることが出来れば、それが私が目指したものと言える。私は成功したと考えている。

定年後、金沢大学で世話になった恩師を訪ねた。「先生。私は金沢大学で先生に恵まれました。北大では友人に恵まれました。電波高専では学生に恵まれました。」と報告した記憶がある。先生は「それはお前の人徳だ」と言ってくれた。私に人徳があるとは思わないが、高専、特に、電波高専で学生に恵まれたことは終世忘れないと思っている。

嘱託を含めて21年間、電波高専および熊本高専には本当にお世話になりました。

高専での教育・研究を振り返る

制御情報システム工学科　嘱託教授　田畑　　亨

嘱託教授としての勤務が３月末で終わる。電子回路関連の講義、実験および卒業研究など学生教育に携わることができた楽しい２年間であった。その間、学校校務が免除され時間的余裕ができ、意外にも教育と研究への情熱を復活できたことは大きな収穫だった。

２年前、定年退職により仕事から解放されるという安堵感があった。そもそも何十年か前、大学受験で私が電子工学科を志望したのは、当時の最先端技術への単なるあこがれであったと思う。しかし、私の適性能力は文系的指向が高かったので、高専教員として学生に接する教育活動には何ら問題はなかったが、専門技術者としての研究活動には結構、苦労したものだった。

そういった意味で、憧れて高専に入学したが専門技術になじめないで勉学意欲の湧かない学生達に共感を感じ、彼等の気持ちが理解できるような気がしていた。また、私が定年退職によって仕事からの解放感を感じたのは自分の適性への違和感だっかかもしれない。

しかし、この２年間で、少し考え方が変わった。わずかの期間ではあったが世の中のIT関連の技術進歩は目覚ましかった。スマートフォン、タブレットパソコンなど、インターネットを通しての情報入手、活用のための機器は魅力に溢れている。

また、ネット通販を通して最先端の各種IC、電子部品など情報電子制御関連の回路パーツは個人で容易に入手でき、何でも個人で研究開発できる便利な時代になったと実感した。このようにIT関連技術の日進月歩が凄まじい時代にあって、これらを身近で勉学し体得できる高専学生、仕事にできる教職員は大変、恵まれており、幸せであると思う。学生達は時代に乗り遅れないためにも意欲的に勉学に励むべきであろう。

これから、私は新たな残りの人生をスタートさせ、これまでできなかったことにいろいろと挑戦したいと思っている。しかし、これまで培ってきた教育と研究に関する専門技術も継続して磨き、自分なりに何らかの形で社会貢献することを目指したいと思う。

高専での思い出

制御情報システム工学科　教授　山本　芳一

平成2年４月、本校電子制御工学科に赴任してから22年、この3月で定年を迎え退職することになりました。

これまでの長い間勤めることができましたのも、学生・保護者各位、教職員の皆様のご支援・ご教示のおかげと誠に厚くお礼を申し上げます。

県立学校から赴任した当時は学科の専用建物もなく、本館の教室でまもなく40歳を迎える電子制御工学科一期生の講義を担当したことを昨日のように懐かしく思い起こします。

また比べるのは失礼ですが、学生の能力が高くこれまでの授業内容とは格段の差があり、毎日講義の準備に追われました。一言ですべてを理解できる学生が多かったので、楽に授業が進められたことも驚きでした。さらに基礎実験器具など手作りで対応しておりましたが、すでにネットワークで50台のパソコン同士が結ばれてプリンタは教室に2台のみと、今では当たり前の状態を目にしてさすが大学並の教育が行われていると感じたものです。

やがてロボコン用ロボット製作に関係するようになり、今日までに至っています。初期の頃はプラモデル用のモータにプラスチック遊星ギヤなど使用した、現在のレベルとは比べものにならないような構造や部品で製作していました。特に印象に残るのは1993年、1994年と連続で九州大会優勝、1999年全国大会3位、技術賞と良好な成績を残し、2000年の九州大会では本校同士で決勝戦を戦った事が思い出されます。また、ロボットの制御方式も、マニュアル操作からコンピュータ制御へと技術が高度化し、機構でも2足歩行が主となっています。以前のような結果が残せず指導力の不足を感じているままに定年になってしまいました。能力ある学生が揃っていますので、輝かしい結果を残してくれると確信しています。

熊本高専が益々発展する事を願っております。どうもありがとうございました。

高専と私の陸上競技

共通教育科　教授　遠山　　徹

陸上部の顧問として過ごしてきました。顧問と言うより陸上競技を愛好する仲間として接してきたと言った方が正確かもしれません。赴任時、陸上競技とどう関わるか何の方向性もないままでした。ところが、後輩が社会人として国体に出場するという報に接し生涯一ランナーとして競技を愛好する道を決意したように思います。若い頃、グランドは毎日ライバル（部員）と競り合う場でした。皆強くなりたい一心で、あるとき、「強い高校では、本練習の前に長い距離をアップしているらしい」と部員が言い出し、すぐさま、アップ3.5キロ＋本練習＋クールダウン3.5キロに変更。アップもダウンもゆっくり走るのが本来ですが、負けず嫌いな者ばかりで、最後の1キロは全力走に変わってしまうのが常でした。

一番脂が乗った30歳台に現れたのが「佐藤雄一君」、練習でも勝てず、彼の背中を見ながら走る日々でした。試験中でも走るほどの努力家で、和歌山の全国大会1500m5位入賞。また、陸上部主催で始め15年続いた「クラブ対抗駅伝（5区間約17キロ）」では、8回大会から力のある部員は一人で走るのが通例になり、彼が総合1位、私が2位、しかも、区間毎の順位も最終区が2位になってしまい完全優勝を逃したというスーパーマンでした。3年生を教えることになり、そこで出会ったのが「悦揮代丈君」、一人で走るのが好きな彼と一緒に競った記憶は薄いのですが、なかなかの逸材。北海道の全国大会1500m3位入賞。思い通りの走りに陰りが見え始めた40歳台後半、練習台（練習パートナー）にならざるを得なかったときの選手が「大崎直樹君」。「数学の授業中ニコニコして優しい先生だけど、グランドで見る顔は怖い」と言った彼。地元開催の全国大会5000m4位入賞。富永君、米村君、桐野君、興梠君、守田君、湯浅君、田代君、等々・・・多くの部員と切磋琢磨し、自分自身も満足できるランナー人生を送られたことを感謝しています。60歳を過ぎ颯爽と走る自分を表現することは難しくなりましたが、39年前に決意した「生涯一ランナー」を全うできるよう、これからも「走ること」を楽しみたいと思う2012年の春です。

記憶に残る試合

共通教育科　准教授　中林　弥生

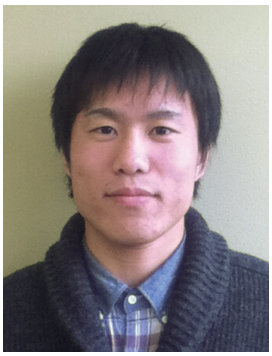
試合終了のホイッスルが鳴ると同時に膝から崩れ落ちた。勝てると思っていた試合に負けてしまったからだ。昨年8月に行われた全国高専体育大会での出来事である。熊本キャンパスハンドボール部を創部して初めて九州地区大会で優勝し、全国大会でも上位入賞を目指していた。1試合目一関高専戦。前半を4点リードで折り返し、後半も順調に行くかと思われた。しかし、あるプレーをきっかけに形勢が逆転し1点を争う試合となった。残り5秒で1点負け。相手の攻撃。半分諦めかけていたその時、奇跡的にマイボールとなった。5秒あれば同点にできる。しかし、残り1秒で放たれたシュートはキーパーにゴールを阻まれた。あまりにも劇的な幕切れでショックは隠しきれない。しかし、予選は3チームでのリーグ戦なのですぐに次の試合が始まる。まさかの敗北で簡単に気持ちの切り替えなんてできるはずがないが時間は待ってくれない。

2試合目が始まった。相手は徳山高専。前半は1点差でリードしていたが、後半はミスから相手に点数をとられてしまうという負ける時のお決まりのパターンとなり、結局2試合目も負けてしまった。この大会の敗因は１試合目で試合の流れを掴みきれなかったところにある。あの時上手にベンチワークができていれば、入賞できていたかもしれない。今、思い出しても悔しさがこみあげてくる。しかし、この苦い経験が部にとってかけがえのない財産となり精神的にも技術的にも成長する力を与えてくれるはずである。

創部以来ずっと監督を務めてきてこの数年が一番楽しくハンドボールを教えることができました。負けて悔しい思いもしましたが、それ以上に笑い、試合にも勝つことができ、たくさんの素晴らしい思い出をくれたハンドボール部のみんなに感謝しています。みんなへの恩返しは全国大会で優勝することだと思っています。今年の夏は笑って終わりましょう。

新学生会長になって

学生会会長（熊本キャンパス）　福田　尚也



こんにちは。この度、熊本キャンパス学生会会長になりました電子工学科4年、福田尚也です。

今、私は学校をより一層向上させていこうという決意に満ち溢れています。この場を借りて、私が考える二つの事柄についてお話します。

まず、熊本キャンパス部活動の推進です。八代と統合して学科・学生数が減少し、部活をする学生が減っているのが現状です。部活は学生生活で重要な一部を担っていると思います。実際、ここ数年でハンドボール部、ラグビー部、弓道部、水泳部と全国の舞台で健闘している部活もあります。ぜひ新入生・在学生に部活動をして欲しいと思っています。

次に、八代キャンパスとの交流です。八代と統合し、合同行事としては入学式程度かと思います。せっかく同じ学校となって生まれ変わったのですから、まだ八代の会長さんとはお話させて頂いておりませんが、何らかの形で合同行事を行いたいと思っています。

一年間尽力していきますので、どうぞよろしくお願い致します。

新学生会長に選ばれて

学生会会長（八代キャンパス）　加々見征弥

新しく学生会長をやることになりました情報電子工学科3年の加々見です。どうぞよろしくお願いいたします。今の自分には正直、今まで先輩方が、一生懸命作り上げてこられた伝統や文化をしっかり引き継いでいく重圧と、学校に所属しているすべての先輩方や後輩たちをまとめ上げることへの不安があります。しかしそれと同時に、学生の皆さんが自分を学生会長に選んでくれて、自分に重大な役目が与えられたことに関しては、非常にわくわくしていて嬉しく思っています。

さまざまな思いを持ってはいますが、自分を中心として活動していく新学生会がやるべきことはただひとつだと考えています。それは、学生のために自分達が何をしなければならないかを考え、責任をもって行動に移すことです。簡単そうだし、当たり前のことなんじゃないの?と思われるかもしれませんが、当たり前のことを当たり前にやることが、一番大切ではないでしょうか。

学生会は皆さんの手助けをする組織で、あくまで皆さんが主役ですので、縁の下の力持ちになれるよう役員全員で協力し、全力を尽くしていきます。皆さんも温かい目で応援をよろしくお願いします。

今年度の明和寮を振り返って

寮務主事（熊本キャンパス）　伊藤　利明

4月の入寮当初、緊張した面持ちの1年生も見違えて逞しくなりました。昨年度から下級生の退寮者が少なくなったので、今や1、2年生だけで寮生の半数を占めます。今年度から男子寮の起床時間を7時に統一し、掃除を短時間で終わらせる工夫をしています。女子寮は、現在、2、3階は満室状態です。男子寮同様、女子寮でも朝の登校指導を始めました。寮生の増加に対応して洗濯機や乾燥機を増設して環境整備に努めています。

前期には、給食や感染症の問題で寮生や保護者の皆様には御心配をおかけして誠に申し訳ございませんでした。寮生の要望を活かすべく新に給食委員会を設けて、委託業者との話し合いをしています。寮生の学習支援のための経費を、管理費より支出していただけるように寮生保護者懇談会で承認していただきました。

来年度から教員の負担軽減のための日直業務の外部委託や、女子寮生の指導充実のための女性教員の宿直業務を開始いたします。

今年度の寮生活を振りかえって

寮生会副会長（八代キャンパス）　田口えりか

私は、入学時から寮生活を送っています。その中で、今まで様々なことを学び、経験することができました。

私が大切にしていることは、礼儀と思いやりの心です。今まで、挨拶や掃除の大切さ、時間を守ることや他人への気遣いなどの当たり前なことを、寮役員の4年生で指導してきました。それと同時に、自らが手本になるような行動をしてきました。まだまだ改善すべきところはたくさんあるので、あと半年の間、役員でアイデアを出し合っていい雰囲気の寮にしていけたらいいなと思います。

寮生活は通学生に比べ、他学年とコミュニケーションをとる機会に恵まれているので、先輩に勉強や進路のことを相談したり、逆に後輩の相談にのったり、一緒にふざけあったり、そんな時間を大切にしながら残りの寮生活を有意義なものにしていきたいです。

■第3回地域イノベーションセンターシンポジウム

地域イノベーションセンター　中島　栄俊

今年で第3回目となる地域イノベーションセンターシンポジウムを12月7日にＫＫＲホテルにおいて開催いたしました。今回は「放射線リスクと向き合う研究者の取り組み」をテーマとして、本学八代キャンパスの小田明範先生から「放射線・放射能の影響と原子力」、熊本キャンパスの高倉健一郎先生から「耐放射線半導体デバイスの開発」のご講演をいただきました。また、基調講演として、福島第一原発の内部調査を行っている緊急災害対応ロボットQuinceの開発者である千葉工業大学　未来ロボット技術センター　副所長の小柳栄治先生から「災害対応ロボットQuinceの開発と課題」と題して、Quinceの開発経緯や原発における作業の困難さについてのお話しをして頂きました。

今回はご講演だけでなく、福島原発に投入されているものと同型のQuinceでデモ走行を行って頂きました。

会場は約100名の聴衆で満席となり、活発で有意義な意見交換が行われました。

■オープンキャンパス

学生募集室長（熊本キャンパス）　合志　和洋

2011年12月3日（土）に熊本キャンパスで冬季オープンキャンパスを開催し、総勢134名（うち中学生74名）の方々にご来場いただきました。今回は、熊本キャンパスの情報通信エレクトロニクス工学科、制御情報システム工学科、および人間情報システム工学科の3学科の特色をもっと知ってもらうことや、入試に関する情報提供などに重点を置き、昨年度の熊本高専だより第5号で宣言したとおり、進学相談に特化した形で実施しました。具体的には、全体での学校説明の後、つぎのような5つの部屋を設けて参加された方々に訪れてもらい、入試に関する相談だけでなく、各学科の説明や学校生活などついて気兼ねなく質問していただきました。

・学生募集の部屋：平成24年度の入試や受験対策など
・授業内容の部屋：入学後の講義や単位のことなど
・学科選びの部屋：各学科の特色や他学科との違いなど
・学生生活の部屋：学校生活や校則のことなど
・寮生活の部屋：寮の見学だけでなく、日課や費用のことなど

受験生に対して本校に進学したいという意欲を高め、具体的に志望学科を決めたり、効果的な受験対策を講じる上で有益な情報を提供できたのではないかと思います。

■インターンシップ成果報告会

学生主事補（熊本キャンパス）　大石　信弘

第7回インターンシップ成果報告会を12月12日にパレアホールにて開催しました。インターンシップは県内外の企業・大学のご協力のもと、本科生5日以上、専攻科生4週間以上の日程で実施されます。本年度は本科生112名（77社）、専攻科生30名（17社・2大学）、合計142名という多くの学生が参加しました。

今回の成果報告会では初めての試みとして、八代キャンパスより2名の専攻科生が参加し口頭発表を行いました。また、海外インターンシップについても英語により口頭発表を行いました。質疑応答ではご来場くださった企業の方からの質問にてきぱきと答え、有意義な時間となりました。その後全専攻科生によるポスター発表を行いました。時間とスペースの都合により、インターンシップに参加した全ての学生が発表することは叶いませんでしたが、発表できなかった学生につきましては成果報告書をご覧いただきたいと思います。

最後に、この場をお借りして、基調講演で起業家としてのチャレンジ精神を説いてくださったワイズ・リーディング社の中山社長およびインターンシップを快く引き受けてくださり、貴重な時間を割いて学生をご指導いただいた企業・大学の皆様に心よりお礼申し上げます。

■「第３回 半導体材料・デバイスフォーラム」を開催しました

半導体デバイス研究部主任　高倉健一郎

平成２３年１２月１６日（金）、ホテル熊本テルサにて、熊本高等専門学校・半導体デバイス研究部主催の第３回半導体材料・デバイスフォーラムを開催しました。本フォーラムは、半導体を中心とした電子材料および関連デバイスの研究者による研究成果を討論するために、一昨年度より開催しています。第３回目となる今回は、招待講演４件を含む１１件の口頭発表および２０件のポスター発表者を迎え、それぞれの究成果報告に対して活発な討議が行われました。

口頭発表のうち５件は高専専攻科生を含めた学生による発表で、県内外の学術研究者を始め、一般企業などを加えて６０名を超える参加者による研究成果の討論を行うことができました。

また、大学院、大学、高専専攻科生によるポスター発表では、一般参加者と学生が討論する光景も窺えました。配置したポスターを囲んで、学生同士の交流が進み、互いの研究レベルアップ、研究活動に対するモチベーション向上につながることを期待します。

■「第 17 回高専シンポジウム in 熊本」を開催しました

実行委員会副委員長　木幡　　進

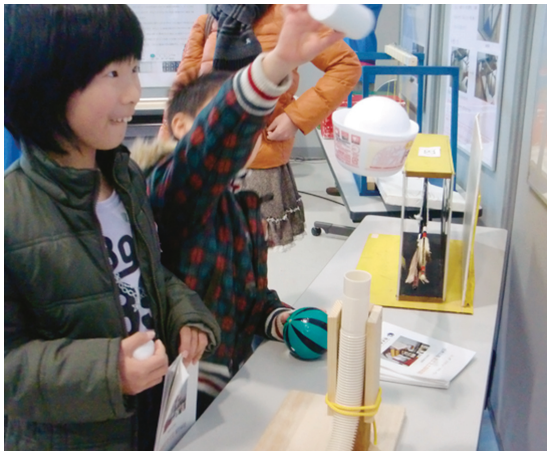
本校と高専シンポジウム協議会の主催のもと、41の学協会・官公庁機関・研究会・企業からの共催・協賛・後援・支援を受けて、平成24年1月28日（土）に表記シンポジウムが開催されました。熊本市の崇城大学市民ホールと国際交流会館の２会場で、北海道から沖縄までの国公私立高専46校および豊橋・長岡技術科学大学の学生および教職員による計389件(口頭273件、ポスター116件）の研究発表が行われました。

地元企業等からの一般参加も含め約550名の参加者があり、盛大なシンポジウムとなりました。材料・化学・生物、機械、電気電子、情報通信、土木建築、環境、工学教育、その他の分野の研究発表で活発な討議が行われました。また、特別企画（本校の地域イノベーションセンターとの共同企画）として 「九州・沖縄地区高専の研究シーズ展示」も行なわれ各高専の特色ある研究活動等の概要が紹介されました。

学生の皆さんが得た貴重な機会、すなわち、学外で自分の研究内容・成果を短時間にまとめて発表し質疑に答える口頭発表や、学外の学生・教職員・企業人と直接コミュニケーションを図るポスター発表、さらに懇親会での交流の経験が、将来生かされることを期待しています。

■八代こども科学フェア

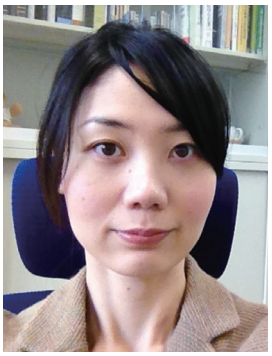
PBL・総合教育センター　大河内康正



平成24年1月7日（土）～8日（日）、やつしろハーモニーホールにおいて八代市工業振興会主催「八代こども科学フェア」が開催されました。小学校理科部会、工業高校、天文台などの他の団体とともに熊本高専PBL・総合教育センターからは、本高専が誇る移動科学博物館、「ミニミニ科学館」として参加しました。今回は、「浮かぶラーメンカップ」など面白く科学を体験できる新作6個を含む15作品を出展しました。たくさんの親子連れが不思議な科学体験を楽しみました。また、屋外のシャボン玉づくりでは、子供達が、大きな奇妙な形をしたシャボン玉がちぎれていくのを楽しんでいました。このほか、1階展示場ではロボコン部からもロボットも出展されました。両日とも好天気に恵まれ、ミニミニ科学館への来場者数だけでも500-600名で、保護者と子供達は一緒に楽しんでいました。

研究紹介

ユージーン・オニール研究



共通教育科（熊本キャンパス）
松尾　かな子

皆さんはユージーン・オニールという人物をご存じでしょうか。四度ピューリッツァ賞を受賞し、1936 年にはノーベル文学賞を受賞したアメリカの劇作家です。私はオニールの作品に見られる細やかな登場人物の心情描写を精神分析学的な見地から分析、考察して、オニールという人物を研究しています。今回の研究紹介では少しでも皆さんにオニールの魅力をお伝えできたらと思います。

オニールの作品には自伝的要素が多分に含まれていますので、オニールの生い立ちに目を向けてみましょう。オニールが生まれた 1888 年は人々の生活が少しずつ豊かになり、教育制度が整い、ハーマン･メルヴィルやナサニエル・ホーソーンといった文学界の重鎮たちがアメリカ文学の礎を築いた頃でした。オニールは、苦労の末に舞台俳優として財を成した父、裕福な家庭に育った母の元に生まれ育ち、名門プリンストン大学へ進学しますが、学問はそっちのけで酒や女性、薬物にのめり込んでいきます。とうとう大学を中退して船乗りとなり、なけなしの給料を一晩で使い切って文無しになれば父親に無心するような放蕩息子となります。23 歳のときに自殺未遂をおこし、24 歳で当時は致命的な病であった肺結核を患って半年間の療養所生活を送り、そこでむさぼるように本を読み、劇作家を志すに至ったのでした。

劇作家となった後は前衛的な手法を用いて次々と作品を世に送り出し、その才能を開花させます。活躍ぶりは冒頭で述べた通り、華々しいものです。オニールの生い立ち故、作品の多くが悲劇性を帯び、その中にオニールの苦悩、特に母親から与えてもらえなかった愛情への憧憬が強く表れています。人の内面を扱う作品は時を経ても色あせることなく私たちの心に訴えかけ、折に触れて警鐘を鳴らしてくれます。オニールの作品もまた同様に人間が人間らしく生きていくために必要なことについて教えてくれていますので、機会があればぜひ一度手に取って読んでみてください。

機械が気持ちを理解する

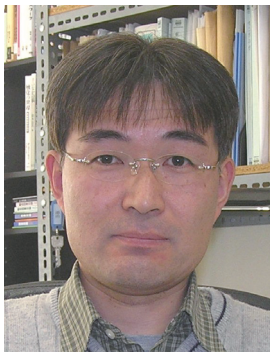
情報通信エレクトロニクス工学科
（熊本キャンパス）
大木　真

最近、私は AQUOS というテレビを購入しました。録画機能が付いていて、とても便利です。2 週間程使っていると、録画した記憶のない番組が録画されていました。これは私や家族が視聴する番組の傾向をテレビが覚えていて、見逃した番組や似たようなジャンルの番組をテレビが判断して勝手に録画するという機能が付いているからです。テレビという機械が、私の好み（気持ち）を理解して、人間の命令なしで行動をしています。このように、人間からの命令を受けずに機械が独自に判断をして行動する技術は「人工知能」と呼ばれます。人工知能というとロボットのようなものを想像される方が多いですが、渋滞を避けるカーナビや、料理の焼け具合を判断しながら加熱するオーブンレンジなど、とても身近なところで応用されています。

私は、このような人工知能の中でも、人間が意思を決める行動「意思決定」を機械が行えるようにする技術について研究をしています。例えば、人が携帯電話を買うときには、選択の基準として「価格」「機能」「デザイン」などがあり、どの項目を一番に重視するかなど、その人の中に好みが存在します。単純に比べられる数値データだけでなく、個人の好みによって物事の選択は大きく変わります。そういった人それぞれの好みを機械が理解し、人の意思決定行動の手伝いをするシステムを実現しようとしています。車を買いたい、家を借りたい、歓迎会のお店を探したい、目的地への経路を知りたい、など様々な意思決定の場面で、その人の好みに合わせた提案を機械が行います。また、個人の意思決定だけでなく、家族や自治体、企業などで行われる会議での意思決定「集団意思決定」の場面でも、その集団（家族や企業）の好みを理解し、集団の好みに合わせた提案を行うシステムについても研究をしています。

現在は、人の“支援”に留まっていますが、将来的には災害現場や宇宙など人が生身では入れないような場所で、人のかわりに人のような行動を行える機械を実現したいと構想しています。

人工皮膚感覚の開発



機械知能システム工学科
（八代キャンパス）
湯治　準一郎

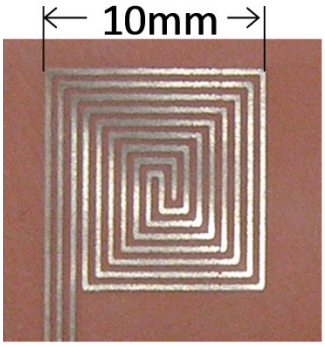
人間は手や指先で触った物の材質や表面状態、温かさや冷たさを、皮膚感覚でいとも簡単に認識できます。私は、この皮膚感覚を工学的に実現するためのセンサを研究しています。一般には「触覚センサ」や「触感センサ」と呼ばれていますが、カメラ（目）やマイク（耳）のように標準のセンサがまだありません。ロボットの分野では、物をつかむ（つまむ）動作が主であるため、接触力やその分布、滑りを取得するタイプが大部分を占めています。

そこで私は人間と同じように接触力だけでなく温度の感覚機能を持った柔らかいセンサ素子の開発を行っています。これまでに力を加えると抵抗が変化する感圧ゴムや、電圧が発生する圧電フィルムの温度特性を利用した単一センサによる方法を提案してきましたが、現在は、皮膚のように柔軟性のあるウレタンやシリコーンゴムの中に感圧感温素子を埋め込む方法を試しています。

また、材質を識別する目的の接触センサとして、市販のフレキシブルプリント基板を用いたらせん状電極フィルムを作製しています（写真）。これは、皮膚感覚の機能ではありませんが、３端子の接続方法を変えるだけで静電容量、インダクタンス、抵抗の変化を検出することができますので、絶縁物や金属材料の識別、他にも温度や湿気の検出にも利用が考えられます。

将来的には、ロボットや義手の人工皮膚、手触り感の伝送などへの応用を考えています。針電極で神経に直接パルス状の刺激を与えることで感覚が生成される研究もありますので、義手から感覚を得る日が来るかもしれません。

ものづくりの現場だけでなく、手術を行う医療分野でも、様々なロボットが活躍している一方で、手や指先の皮膚感覚を利用しないとできない作業や検査も未だに多くあります。僅かな違いを見分ける職人技へどこまで近づけられるかが課題です。



３端子電極フィルム

私の研究

建築社会デザイン工学科
（八代キャンパス）
橋本　淳也

近年、地球温暖化の抑制や環境意識の高揚によりバス・鉄道の利用促進の動きがある一方で、地方部では利用者が減少し衰退が進行しています。

私は、バス・電車を対象に、利便性向上策・効率的運行体系・利用促進策などの提案、ＩＴ技術の活用に取り組んでいます。

今では当たり前になりましが、パソコンや携帯電話による「バス時刻検索システム」の開発を 2000 年度から取り組み、現在実用化されています。2010 年度にはバスの現在位置がわかるシステムを湯治先生（機械知能）と民間企業とで共同開発し、実際の路線バスで試験運用を行いました。

利用促進策では、熊本大学溝上章志教授を中心とする研究チームの一員として、日本モビリティ・マネジメント会議よりＪＣＯＭＭ技術賞を受賞しました。（受賞業績名：熊本電鉄の利用促進のための一連のＭＭ施策とその有効性の評価）

この他、バス・電車利用者の実態把握やのりあいタクシーの導入に向けた調査・分析を実施し、バス路線再編案や新たな公共交通導入策の検討を手掛けてきました。

熊本県南でも路線バスの廃止・縮小、コミュニティーバスやのりあいタクシーの新設などの交通体系整備が行われています。今後も、地域交通の維持に役立つような調査研究等を重ね、本校の理念の1つである地域貢献に微力ながら努めたいと思います。

相談室より

相談室長（八代キャンパス）豊浦　　茂

「ソ、ソ、ソクラテスかプラトンか　二、ニ、ニーチェかサルトルか　みーんな悩んで大きくなった　オレもおまえも大物だ！」というサントリーのCMがあった。君に悩みはありますか。悩むのは大いに結構。人間、大きくなるのだから。でも悩みは解決しないとね。人に話してみると、意外と同じ悩みを抱えていたり経験していたりで、話のなかで解決の糸口が見つかることもある。後で振り返ればなぜあんなことで悩んでいたのかと思えることもある。話すきっかけをつかむのに少し勇気がいるけれど、思い切って話しかけてみよう。そういう話ができる友人や、できれば少し年上の心許せる人がいれば幸せだね。

知合いに話すのが躊躇われるときは、相談室を訪ねてみよう。青少年向けの相談窓口に電話するのもいいかもしれない。悩みが軽い時に世間話のように話ができれば、解決も早い。深刻で自分では解決できないと感じているなら相談室を訪ね、看護師、担当教員、心理士、医師と話をしてみよう。多くの事例を知っているだけに、気持ちが楽になるかも。

年代ごとに、いろいろな悩みがある。でも皆そういう経験をして大きくなった。その時は大変と感じるけれど大丈夫。そういう意味でも年上の人と話をするのは大切だね。

世の中、環境が良くなくても努力し成功している人はいる。自分に合った道を見つけ、大きくなろう。構内の木も新緑、花期、紅葉を繰り返し、年輪をかさねながら、少しずつ成長している。どこまで成長できるだろう。

保健室から

看護師（八代キャンパス）反頭　昭子

まもなく、東日本を襲った震災から1年が過ぎようとしています。
遠く離れた九州で、テレビの前に釘づけになったあの日、多くの方々の命が消えていました。なんと残酷なことであろうかと、深く心が震えました。自然の大きな力の前に、人間の力が実に非力なものであるということを実感しました。

しかし、その中にも、日本人として数多く、懸命に生き続けておられる人々の姿に接することができました。平凡な日々の大切さと人との繋がりを大切にして、今の自分の命を生き続けることが、亡くなられた方々に少しでも報いることのひとつかもしれません。

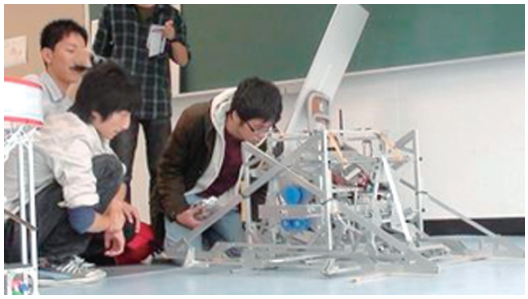
ところで、この年末年始にも卒業生の方々の保健室への訪問がありました。卒業後の今を語り、在校中の思い出話に盛り上がって、「じゃあまた」と再会を願って別れました。いろいろな先輩たちが保健室に来室されています。在校生の皆さんも、時にはゆっくり、おしゃべりに保健室に来てみませんか？　心理士の亀井先生も校外からの温かな風と優しい気持ちを運んでくださっています。

さて、2009年度の「新型インフルエンザ」の本校の取組みについて、県内の大学で組織している高等教育機関コンソーシアム熊本で、高い評価を受けました。各クラスの保健委員さんの活躍や、寮や教室、体育の授業での対応など、その取組みがパーフェクトとだという評価でした。これらの内容は、「検証：新型インフルエンザ2009」にまとめられ、3月末に高等教育コンソーシアム熊本から発行されます。感染症に興味のある方は、ぜひ読んでみて下さい。世界は近くなって、感染症の発生も地球単位で予測され、今年も命を見つめる1年となると思います。

卒業の皆様も時には、声を聞かせて下さい。待っています。どうぞお元気で!

HP& 事務部より

ロボコン部が「ミスミ学生ものつくり支援」に採択されました。



株式会社ミスミが行う「学生ものつくり支援」に、八代キャンパスロボコン部が応募し、採択されました。これは同社が、将来の製造業を担う学生を応援するためロボットや自動車競技会等に挑戦している団体へ部品提供活動を行っているもので、書類選考を通過した団体には5万円分の機械部品が提供されます。設計者は今年のロボコンで「全方向二足歩行機構」を設計した機械知能システム工学科2年生で、1年ぶりの全国大会出場に向けて情熱を燃やしています。

第 22 回高専プログラミングコンテスト本選に出場しました。

12月22日（木）～23日（金）にかけて第22回全国高等専門学校プログラミングコンテストの本選が舞鶴市総合体育館で開催されました。7月末に行われた予選を通過した両キャンパスのチームが課題部門・競技部門に出場しました。今大会の課題部門は「旅とコンピュータ」をテーマに行われ、熊本キャンパスは「ぐるりん―スマートフォンで観光情報を簡単発信―」、八代キャンパスは「旅人―あなたと私で二人旅―」をタイトルとして参加し、両チームとも敢闘賞を受賞しました。

「閃きイノベーションくまもと 2011」が開催されました。

熊本県工業連合会と熊本高専が主催する学生アイデアコンテスト「閃きイノベーションくまもと2011」が開催されました。このコンテストは、県内企業の経営や技術等、企業活動全般に関して学生からのアイデアを募集するもので、製品づくりや新規事業の提案、ユニークな宣伝プランや経営戦略など、学生の自由な発想・アイデア溢れる提案が期待されています。12月22日に1次審査が実施され、67件の応募作品の中から選出された15作品を対象とした2次審査が1月17日に実施されました。審査の結果、熊本キャンパス専攻科1年の中村早希さんの作品が最優秀作品として大賞を受賞しました。

平成 23 年度学生教育研究支援金 交付対象（6 月および 12 月採択）

●学生研究支援金

KC　古庄　泰隆（T4） 永松　七海（HI2）他4名 三川　克己（HI2）	OpenCV と Kinect によるリアルタイム映像編集を利用したコミュニケーション支援ツールの開発 電流方向および強弱表示回路（縦方向同時点灯式） 動画で作る Adobe Premiere のマニュアルとエフェクトの最適な時間設定
YC　今村ひかり（3B）他3名	えひめ AI による減量農薬・減量肥料の可能性について

●産学連携及び地域貢献活動支援金

KC　稲葉　　潤（AC2）	動画共有サービス「Ustream」を活用した情報発信
伊藤　宏志（CI1）他2名	二足歩行ロボットの制作と公開講座用教材の開発
YC　髙木明日香（4B）他5名	お茶会（茶道）による地域貢献活動
古武　宏輝（2MI）他5名	「金環日食観察キットを作ろう」の講座開催および小中学生への日食メガネの配布

●学生活動支援金

KC　吉村圭一郎（E4）	Arduino を用いた環境情報自動通知ネットワークデバイスの制作
YC　甲斐　　繁（2MI）他3名	Arduino および Processing を用いた無線操作ラジコンの制作

熊本高専 行事予定 4−9月

熊本キャンパス

4月	5日(木)	入学式
	6日(金)	始業式
	6日(金)	授業開始
	11日(水)	1年生県下一斉テスト
	12日(木)	対面式
	19日(木)〜20日(金)	1年生合宿研修
	28日(土)	保護者懇談会・奨学後援会総会・寮生保護者会
5月	1日(火)〜2日(水)	春季クラスマッチ
	11日(金)	専攻科推薦選抜試験（電子情報システム工学専攻）
	26日(土)	専攻科学力選抜試験（電子情報システム工学専攻）
6月	6月上旬	高校総体
	8日(金)〜14日(木)	前期中間試験
7月	13日(金)〜14日(土)	九州沖縄地区高専体育大会
	20日(金)〜22日(日)	九州沖縄地区高専体育大会
	23日(月)	編入学試験（本科）
	24日(火)〜30日(月)	前期定期試験（専攻科）
	30日(月)〜8月3日(金)	前期定期試験（本科）
8月	4日(土)	夏季オープンキャンパス
	13日(月)〜9月23日(日)	夏季休業（本科・専攻科）
	18日(土)〜28日(火)	全国高専体育大会
9月	24日(月)	後期授業開始

八代キャンパス

4月	4日(水)	始業式
	5日(木)	入学式
	6日(金)	対面式・春季文化発表会
	9日(月)	授業開始
	19日(木)〜20日(金)	1年生合宿研修
	28日(土)	保護者懇談会・後援会総会 寮生保護者懇談会
5月	11日(金)	専攻科推薦選抜試験（生産システム工学専攻）
	22日(火)	学生総会・球技大会
6月	6月上旬	高校総体
	8日(金)〜14日(木)	前期中間試験
7月	13日(金)〜14日(土)	九州沖縄地区高専体育大会
	20日(金)〜22日(日)	九州沖縄地区高専体育大会
	27日(金)	編入学試験（本科）
	30日(月)〜8月3日(金)	前期末試験
8月	5日(日)	オープンキャンパス
	10日(金)〜9月23日(日)	夏季休業
	18日(土)〜28日(火)	全国高専体育大会
9月	7日(金)〜9日(日)	保護者懇談会
	24日(月)	後期授業開始

編集後記

今年もあっという間に1年が終わろうとしています。この1年間、高専だよりの執筆・編集に関わっていただきました教職員の方々、学生の皆さんに心より感謝いたします。毎年、この時期に感じるのは、ああこの子はこの前入学してきたばっかりなのにもう卒業か、という思いです。新しい道に進んでも、帰熊の際には高専に遊びに来て、仕事や研究の話をしてほしいものです。卒業する皆さんの今後のご活躍をお祈りいたします。

表紙題字
校長 宮川英明

熊本高専だより 第8号

独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

〈熊本キャンパス〉
〒861-1102 熊本県合志市須屋2659-2
TEL 096-242-2121

〈八代キャンパス〉
〒866-8501 熊本県八代市平山新町2627
TEL 0965-53-1211

〈熊本高専ホームページ〉
http://www.kumamoto-nct.ac.jp/

〈総務委員会〉 平成24年3月 発行